

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	ベミガチニブ (FGFR1融合遺伝子陽性の骨髄性又はリンパ性腫瘍)
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	FGFR1融合遺伝子陽性の骨髄性又はリンパ性腫瘍
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NHL-47
登録日・更新日	2023年4月25日
削除日	
出典	ベマジール錠4.5mg 適正使用ガイド
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ベミガチニブ (ベマジール錠)	4.5mg	13.5mg/回	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回	-

1コースの期間	-
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日) <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【減量・中止基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 網膜剥離 症状がある場合又は検査で異常が認められた場合は休薬。休薬後、改善した場合は1段階減量して投与を再開できる。改善しない場合は投与を中止。 高リン血症 <ul style="list-style-type: none"> 血清リン濃度5.5mg/dL超～7mg/dL以下:リン制限食を開始 血清リン濃度7mg/dL超～10mg/dL以下:リン制限食に加え、高リン血症治療剤の投与を開始。高リン血症治療剤の投与開始後2週間を超えても継続する場合は本剤を休薬。休薬後7mg/dL未満まで改善した場合は同一用量で投与を再開できる。再発が認められた場合は1段階減量して投与を再開。 血清リン濃度10mg/dL超:リン制限食に加え、高リン血症治療剤の投与を開始。高リン血症治療剤の投与開始後1週間を超えても継続する場合は本剤を休薬。休薬後7mg/dL未満まで改善した場合は1段階減量して投与を再開できる。 その他副作用Grade3: Grade1以下又はベースラインに回復するまで休薬し、回復後、1段階減量して投与を再開できる。休薬後2週間を超えても継続する場合は投与を中止。 その他副作用Grade4: 投与を中止。 <p>【減量の目安】</p> <p>通常投与量: 13.5mg 1段階減量: 9mg 2段階減量: 4.5mg 3段階減量: 原則中止(注)</p> <p>(注)2段階減量時点で奏効が認められ、かつ治療上の有益性が危険性を上回ると判断された場合のみ、4.5mgを14日間投与後に7日間休薬を1サイクルとして投与を継続することができる。4.5mgを14日間投与後に7日間休薬で副作用が発現した場合には投与を中止すること。</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 染色体検査又は遺伝子検査により8p11染色体領域の転座が確認され、FGFR1融合遺伝子陽性の骨髄性又はリンパ性腫瘍と診断された患者に投与すること。 網膜剥離があらわれることがあるので、投与中は定期的に眼科検査を行うなど観察を十分に行うこと。

記入者	湯山 聡
確認者	竹内 正美